SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度選定

熊本県南阿蘇村

2023年5月

SDGs未来都市計画名	南阿蘇村 ＳＤＧｓ未来都市計画～３つのＫによる「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」の構築～
自治体ＳＤＧｓモデル事業 又は特に注力する先導的取組	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度

1．全体計画（2030年のあるべき姿）

（１）計画タイトル

南阿蘇村 ＳＤＧｓ未来都市計画～３つのＫによる「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」の構築～

（２）2030年のあるべき姿

第２次南阿蘇村総合計画において村の将来像を「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」と定めており、村の将来像を実現するために、３つの「Ｋ」、つまり「環境」・「活力」・「暮らし」を村づくりの指針としている。地域資源を最大限活用しながら、環境・経済・社会が統合的に循環していくＳＤＧｓの考えとも合致しているため、この将来像を 2030 年のあるべき姿とする。

（３）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
8 働きがいも経済成長も	3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 15 陸の豊かさも守ろう

（４）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	年間の新規就農者数 【8.3、8.9】	2022 年 6 人	2022年 6 人	2030年 10 人	100%
2	観光入込客数 【8.3、8.9】	2022年 3,443,000 人	2022年 1,734,707 人	2030年 5,800,000 人	-72%
3	移住・定住者数（累計） 【11.3】	2022年 60 人	2022年 95 人	2030年 80 人	175%
4	特定健診受診率 【3.5】	2022年 52.5 %	2022年 52.2 %	2030人 57.0 %	-7%
5	新たな再生可能エネルギー発電所の建設 【7.2】	2022年 0 箇所	2022年 2 箇所	2030人 2 箇所	100%
6	放牧環境の整備 【15.4】	2022年 0 件	2022年 9 件	2030人 10 件	90%

（５）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・年間の新規就農者数について、村内の農地の維持と新規就農者の育成、土地利用型作物の振興による農地の活用を目的に、南阿蘇村農業みらい公社を設立したので今後順調に推移していくと考える。【No1・年間の新規就農者数】
・観光入込客数・特定健診受診率については、コロナ禍の影響で人流が大きく低下したことが要因で目標に届いていない状況であるが、今後は新型コロナが終息したこと、また熊本地震からのインフラ復旧が完了した事により、特に観光入込み客数は大きく増加に転じると予想されるので、積極的なプロモーション活動等を実施して、目標達成を目指す。【No2・観光入込客数、No4・特定健診受診率】
・移住・定住者は、空き家・空地バンク事業、空き家・空き地バンク改修事業補助金、家財道具等処分事業補助金、お試し移住体験などの事業推進、また地域おこし協力隊の積極的な受入を進めたことなどが要因で、順調に増加した。【No3・移住・定住者数】

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度

１．全体計画（自治体ＳＤＧｓの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

（１）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2023年 実績	2024年 実績	2024年 目標値	達成度 （%）
1	自然環境に配慮した整備	希少種の生息・生育状況リストの作成	2022年 0 未作成	2022年 0 未作成			2024年 1 作成	0%
2	“攻め”の農畜産業の推進	有機農業取組面積	2022年 50 ha	2022年 59 ha			2024年 52.5 ha	100%
3	防災・減災対策の充実	自主防災組織率	2022年 89.6 %	2022年 95.0 %			2024年 95 %	100%

（２）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

阿蘇の草原を活かすエシカル畜産業による地域活性プロジェクト、「南阿蘇村　草原再生・あか牛復興プロジェクト」を発表し、３つの目標である「農畜産業」「環境対応」「観光産業」に応じて、次の関係企業等と連携して推進することとなった。
【南阿蘇村、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、熊本県畜産農業協同組合連合会、南阿蘇村商工会、一般社団法人みなみあそ観光局、東海大学九州キャンパス、くまもと阿蘇県民牧場株式会社、株式会社肥後銀行、株式会社グローカル・クラウドファンディング】
また今回、プロジェクト賛同企業より企業版ふるさと納税による寄附を頂いており、今後も継続し、企業支援を呼びかけていくこととしている。

（３）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・希少種の生息・生育状況リストの作成については、現在担当課において作成に向け検討中であり、2024年に向けて作成を進めていく。【No1・自然環境に配慮した整備】
・攻めの農畜産業の推進に関しては、村による積極的な有機農業の推進、また農業みらい公社を設立し就農希望者サポート等おこなったことで、有機農業取組面積が目標より増加することができた。【No2・“攻め”の農畜産業の推進】
・今後この流れをきっかけに農畜産業全体に波及させ、村の草原・地下水などといった「環境」の保全に繋げ、またその環境を最大限に活し稼げる農業・観光業など産業振興を図ることで「活力」とし、最終的には住民の豊かな「暮らし」に繋げていきたい。【No2・“攻め”の農畜産業の推進】

（４）有識者からの取組に対する評価

・移住・定住者は着実に増えていると推察され評価できる。
・全体的に取り組み内容が概要のみで具体性に欠けるため適切な評価が困難と思料する。評価シートの記載内容を改めて精査し、取り組み内容の進捗を具体的に把握の上で、別紙2に記載された内容の評価がされるよう、再検討が望まれる。
・エシカル畜産業という焦点がはっきりしてきたことは良い方向性であると評価できる。
・KPIを確認しても、「くまもとあか牛」の取組が具体的にどのようなものなのか確認できず、SDGsに資する点に関しても不明瞭であるように見受けられる。現状では、連携協定を締結したにとどまるのか、説明が望まれる。先導的取組の記載内容も具体性に欠けており、何をどのように活用することが持続可能な取組となるのか説明が望まれる。
・メタバースでのコミュニティは指標にも記載がなく、評価が困難と思料する。